

ふりがな 氏名	りゅう いいてん 劉 亦天	都道府県	東京都	
所属/肩書	教育コーディネーター（フリーランス）			
私のESD活動	グローバル教育を通じて、個人と社会を豊かにする学びの場を提供する			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

小中学生を対象に、「21世紀型スキル」と「グローバルコンピテンシー」を育むプロジェクト型学習の場を企画・運営している。プロジェクト型学習は問題解決型と質問探求型の二つに分類することができる。問題解決型のプロジェクトでは、学年混合の子どもたちがチームとなって、貧困や過疎などの社会問題を解決するためのアイデアを考え出す。一方で、質問探求型のプロジェクトでは、子どもたちが「音声合成はどのように行われるか」「なぜISはテロを起こすのか」といった自分の興味から生まれた質問をテーマとして設定し、その答えを探求していく。これらのプロジェクトを通じて、子どもたちが未来の社会で活躍するために必要な創造性、コラボレーション、コミュニケーション、試行錯誤する力などを身につけることが目的である。

この活動を始める前、私は教育の民間企業で幼児から高校生までと向き合って仕事をしており、日々の教育現場の中で「子どもたちが未来に必要な学力を育む機会が不足しているのではないか」という問題意識を持っていた。例えば、他者と協働して新しい価値を生み出す力。現在の教育システムでは、受験合格に向けて一人で努力する個人作業に重点が置かれており、子どもたちが異質な他者と課題を設定し、解決方法を考えて実践する力の育成が不十分である可能性が高い。そのため、この問題を解決するために、地域の保護者や学習塾と連携してプロジェクト型学習の場を提供している。

次の世代に必要な教育機会を行政だけに委ねるのではなく、地域の方々が草の根運動のように自らの手で創り出している点がこの活動の革新性である。

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

ESDを二つの活動で展開する予定である。

① 日本と外国の子どもたちが一緒に学ぶプロジェクト型グローバル教育事業を通じてESDの活動を広げていきたい。この事業では、同じ地域に住む日本と外国の子どもたちがチームを結成し、二ヶ月間にわたって異文化を探求したり、地域の問題解決に挑戦したりする。この協働経験を通して、子どもたちは小学生の頃から世界で活躍するために必要なスキルとマインドを学ぶことができる。現時点においてグローバルに活躍する力を育むためには、留学が最も効果的な手段となっているが、貧困層や中学生以下の子どもたちの参加は難しい状態にあると言える。本事業が成功すれば、子どもたちが日本にいながら世界について学ぶことができ、持続可能な世界に貢献できる人材をより多く育てることができる。

② 中国でESDを実践するリーダーになりたい。昨年、四ヶ月かけて故郷の中国を旅した時、若者の関心が社会よりも自分自身に向けられているケースに多く直面した。若い世代の関心事は自分がどう経済的に成功するかということに占められており、社会と他者の豊かさは二の次になっている傾向がある。中国が少子高齢化と成熟社会の時代を迎えれば、国家の豊かさの担い手はトップダウン型の政府主導からボトムアップ型の民間イノベーションに移っていくと予想される。そのため、社会全体の持続可能性に関心を持つリーダーに自らなり、その輪を広げていきたい。